

御堂筋完成 80 周年記念事業推進委員会 設立趣意書

御堂筋は、本市の第一次都市計画事業の中心プロジェクトとして、当時幅員 6m の道路を拡幅し、梅田から難波を結ぶ幅員 44m の大幹線道路として昭和 12 年（1937 年）5 月 11 日に完成しました。これまでに例をみないような大事業であったため、拡幅後の沿道にもたらす利益を根拠に整備費用の一部を沿道の住民に負担していただくといった新たな制度も導入しながら、市民が作り上げたみちであることも本事業の特徴です。

この御堂筋は、市の中心部を南北に貫く大動脈として、まちの経済成長を支える基盤施設として重要な役割を担ってきた事はもちろん、全長約 4 キロメートルにわたり開放感のある道幅を有し、無電柱化、自然あふれるイチョウ並木、ビルの高さを一律百尺（約 31メートル）に制限するといった斬新で先駆的な取組みを試みることで、世界でも類を見ないほどの美しい道となり、大阪のシンボルとして歴史と風格を兼ね備えた道となっています。

また近年では、道路空間を利活用した賑わいづくりの取組みが積極的に進められ、あわせて人中心の空間へと道路の再編をめざす検討も進められています。沿道の土地利用も時代とともに変化するなど、市民ニーズの多様化にともない御堂筋に求められるものが今後も変化していくものと考えられます。

市民の知恵と生活により、世界に誇る道として成長、発展してきた御堂筋は、平成 29 年に完成後 80 周年を迎えます。これを契機に、御堂筋を築きあげてきた歴史的意義を再認識するとともに、市民とともに御堂筋の将来を考え、市民とともに記念の年を祝すことを目的として、「御堂筋完成 80 周年記念事業」を実施します。この記念事業を推し進め、成功に導いていくために、ここに各団体の協力のもとに「御堂筋完成 80 周年記念事業推進委員会」を設立します。

平成 28 年 11 月 24 日